

やむごとなきをばさらにもいはず、四五のむすめといへど、ことによじらひわろくなり、いでたちきよげならぬをばあへてつかうまつらせ給べきにもあらず、ものきらゝかになりいでよきをえらせ給へり、さべきわらはなせは、によう院○一條母后 東院證子 なせよりたてまつらせ給へり、これはやがてこのたびのわらはのなせも内人院人宮人殿人なせやうつけあつめさせ給へり、ひめぎみの御ありさまさらなることなれど、御ぐしたけに五六寸ばかりあまらせ給へり、御かたちきこえさせんかたなくをかしげにおはします、まだいとをさなかるべきほせにいさ、かいはけたることなく、いへばおろかにめでたくおはします、みたてまつりつかうまつる人々も、あまりわからくおはしますを、いかにものゝはえなくやなせおもひきこえさせ志かせ、あさましきまでおとなびさせ給へり、よろづめづらかなるまでにてまゐらせ給、むかしの人のありさまをいまさき、あはするには、いとぞものぐるほしうそのをりの人のきぬずくなにわたらすくてめでたきをりふしもいでまじらひ、うちくにもいかでありたへたらんとおぼえたり、このごろの人はうたてなさけなきまでできかさねても、なほこそはかせなせもおこるめれ、さればいにしへのようごきさきの御かたぐなせ、おもふやうにかたはしだにあらずやとみえたり、かくてまゐらせ給へるに、うへ條一むげにねびものゝこゝちしらせ給へれば、時歲二十いとゞものはえもあり、またはづかしうおはします、中ぐう定のまゐらせ給へりしほせなせは、うへもいとわかくおはしまし、かば、これはさらなることながら、おほんこゝろおきて御けしきなせ、すべてすゑの世のみかせにはあまらせ給へりとまでぞ、世人やむごとなききみにおはしますと、時の大臣公卿も申きこえさせける、故くわんばくせの○定子父の御ありさまは、いとものはなやかにいまえかしうあいざやうつきけぢかうぞありしかば、中ぐうの御かたはてんがやう人もほそせのつねにゆかしうあらまほしげにぞおもひたりし、こきでん○義承香でん○元